

ビギバズレポート

12月9日（土）・10日（日）に阿倍野 ROCKTOWN にてミュージックビジネス専攻(MB 専攻)のライブイベント『ビギバズ！-MINAMI WHEEL EDITION-』が行われました。『ビギバズ！』は“新しい一年に向けてここからバズを生み出していくイベント”というコンセプトのもとに、2日間でテイストを変えて開催したイベントです。1日目は「今を歌え！」・2日目は「ネバーランドへの切符」というサブタイトルを掲げて、プロのイベンターやプレイガイド、メディアのサポートを受けて企画・運営しました。

12月9日（1日目）

“今を歌え！”では「シトナユイ」、「猫背のネイビーセゾン」、「板歯目」によるライブが行われました。



シトナユイ

トップバッターとして登場したのは、大阪音楽大学の卒業生であるシトナユイ。軽やかなギターが特徴的な「Groovin' Weekend」からスタートし、詩乗りの良い「The City's Heartbeat」が会場の熱を引き上げました。スローテンポな曲から体を揺らしたくなるような曲まで幅広い雰囲気 of the 歌声に圧巻でした。

猫背のネイビーセゾン

続いて登場したのは夜を彩るネオンロックバンド、猫背のネイビーセゾン。ラップと疾走感あるメロディが癖になる「NEON TETORA」から始まり、観客を煽りながらのパフォーマンスがフロアの熱を上げていきました。最後にロックバンドらしいサウンドと、お洒落でリズムカルなサウンドが融合した「愛想のまちがい」を披露し、会場は完全にネオンカラーに包まれていました。

板歯目

最後に登場したのは爬虫類系ロックバンド、板歯目。力強い「オリジナルスクープ」から始まったステージはまさに、「ロック」を体現したかのような激しいパフォーマンスで、どんどん引きずり込まれていきました。アンコールでは「Ball & Cube with Vegetable」を披露。板歯目の世界観を存分に詰め込んだこの曲で、1日目は幕を閉じました。

こんなライブが行われる6時間前、学生たちは会場であるROCKTOWNに集合しました。ROCKTOWNに到着すると、まずは会場スタッフの方々に挨拶をします。その後、当日の予定の打ち合わせを行い、会場内を一周しながら動きを確認していきました。





それからは楽屋周りのセッティング、受付の準備、物販ブースの設置などを始めました。また MC の台本や関係者の方々のお弁当の準備なども行いました。当日になって気がついたこともあり少しばたついた場面もありました。





ライブのリハーサルが始まると、舞台裏担当の学生はリハーサルの転換等を行い、ロビーでは運営チームの打ち合わせ、お客さんにお渡しするフライヤーの整理を行いました。そしてお客さんが自由に書いていただける色紙の設置、ミナミホールエディションにちなんだ

特典の受付ブースの準備も行いました。本番が近づき、気持ちが高まってきていました。



リハーサルが終わると、アーティストの方々と学生で記念撮影を行いました。



開場すると、会場内の混雑を避けるため、受付担当やお客さんの誘導担当の学生による対応が多くなりました。

開演中は、それぞれの持ち場で仕事をしたり、交代でライブを鑑賞したりしていました。また SNS 担当の学生は、会場準備中から終演まで随時 SNS の更新ができるように、内容とスケジュールを考えながら動いていました。

そして終演後、その日の振り返りを行い一日が終了しました。

初めてのライブ運営でわからないところもたくさんあり、事前シミュレーションの大切さに気がつきました。

12月10日（2日目）

“ネバーランドへの切符”では「大翔」、「灯橙あか」、「名無し之太郎」によるライブが行われました。



大翔

2日目のトップバッターを務めたのは大翔。ノリのいい「Monster Dance Hall」で盛り上がったかと思えば、「瘡蓋」の歌声で心がじーンと締め付けられました。最後に披露したのは晴れの日に聴きたくなるような「シャボン玉」。爽やかに前向きな「シャボン玉」は会場を盛り上げ、青春時代を思い出させました。

灯橙あか

次に登場したのは、儂くて、可愛らしくて、でも力強い、そんな歌声をもつ灯橙あか。今回のライブではほとんどの曲がアコースティックギターでの弾き語り、歌詞のひとつひとつが心にスッと入ってくる音楽でした。唯一バックミュージックのあった「今夜死にたいと思った。だから歌いたいと願った。」はまた雰囲気が違って、思わず体を揺らしてしまいました。

名無し之太郎

最後に登場したのはおしゃれなサウンドと引き込まれるような歌声をもつ名無し之太郎。サウンドのカギとなるキーボードとパワフルかつ妖艶なその歌声は、「融解」のようにおし

やれでアップテンポな曲だけでなく、「ドライブ」のような晴れやかな曲でも光っていて、
ついつい聴き惚れてしまいました。

一方学生の動きはというと、2日目も会場スタッフの方々への挨拶、当日の予定確認からス
タートしました。1日目担当の学生からのアドバイスのおかげで、準備はスムーズに進みま
した。





楽屋準備では“切符”をイメージしたウェルカムボードとアーティストのイメージに合わせた装飾をし、アーティストを迎える準備をしました。



またフライヤーを準備したり、前日の反省点を踏まえて動きを調整したりした後は、学生で

円陣を組んで士気を高めました。



リハーサル後は、9日同様、学生とアーティストで記念撮影を行いました。



開場すると、受付係と誘導係、ミナミホールの特典ブースが忙しくなりました。



開演中には学生も観客として参加しながらライブを楽しみました。

ライブ終了後は、2日間の余韻に浸りながら片付けをし、長かった準備期間の思い出を学生同士で語り合いました。

2日間を通して

たくさん難しい場面はありましたが、ライブを観てくださった方々から「あのアーティスト初めて聴いたけど、すごく良かった！」などの感想をいただくことができ、音楽と人々を繋ぐことができたのだと嬉しくなりました。今回のライブ運営で見えてきたことを今後の活動で活かしていきたいと思います。